

6月15日(金) Tropea 快晴

午前中コインランドリーがあったので洗濯したり布団を干したりしながら艇でゆっくり休む。

マリーナのショップで大きなボール状のフェンダーを購入する。地中海での係留方式はスターンをポンツーンに着けバウは備え付けの舳いロープを取る槍付け方式だ。

両サイドに艇がある狭いところに押し込むように入れることがある。その時フェンダー同士が絡むことがあるのでボール状のかいフェンダーを購入して絡みを防ぐようにした。

又空になっていたプロパンガスのボンベを交換する。交換の方式は自分の空いたボンベを船具屋さんを持っていくと充填したあるボンベと交換してくれる。料金はガス代だけであるが容器は古いのになったり新しいのになったりする。充填待ちをしないで済むので合理的だ。3kgのプロパンガスで約20~25€だが二人だと1か月ぐらいいは十分に使える。

ここも町の中心街は海に聳えたつ丘の上の旧市街地だ。タクシーを呼んで行ってみるがお土産物屋さんレストランが沢山並んでいた。この一帯は珊瑚が取れるのか珊瑚の店が多かった。見晴らし台から見る景色は眼下に海が広がりマリーナや海水浴場も見え素晴らしい眺望だった。

スーパーマーケットで食材を購入してリュックサックに入れてタクシーで帰る。

ここはサンセールというボートチャーター会社の基地になっている。金曜日のせいか乗り換えの人たちが集まり賑やかである。チャーターボートで帰ってきた米国人からこれから行くエオリア諸島の状況を聞き参考にする。

夕暮れ時の一杯を楽しんでから夕食はマラティーアで買ったテラコッタの子鍋でニンニク沢山の小エビのオイル焼きを頂く。この料理方法はスペインのタパスの一品であったのを真似した。タコ、イカ等にも使えるので重宝だ。

6月16日(土) Tropea ~ Lipari(45NM)快晴

07:30 出港 今日風も凪だ。10時過ぎから吹く風に期待したが今日はなかなか吹いてくれない。11時過ぎにやっと3~4ノットの風が吹き出したのでジェネレーターを揚げて2ノット前後の速度で約1時間帆走するがそれ以上風が強くなり諦めLipariまで機走する。

途中エオリア諸島の時折噴煙を噴き上げるStromboli島のわきを通過した。夜は炎が夜空を染めて自然の躍動が見えるようだ。

16:30にLipari島のPignataroに舳いを取る。土曜日なのでマリーナは賑やかだ。

結構お年を召したご婦人も超ビキニの水着で初夏を満喫している。

きれいな港で底まで透き通りきれいに見える。

バウ スラスターの動きが悪いので見てもらうよう依頼するが1時間後にメカニックが来るとのことだったが待てど来なかった。明日に期待する。

夕食はポークと玉ねぎのトマトソース煮込みとルッコラのグリーンサラダを頂く。

6月17日(日) Lipari~Vulcano(4NM)快晴

朝再度メンテナンスの確認をする。10分したら来るとの事、今回は直ぐに来てくれバウ・スラスターを見てもらう。バッテリーの消耗かと思っていたがコネクターの接触不良だった。ついでにビルジの出が悪いので調べてもらったらポンプへの入り口の部分のゴミつまりだった。これで不具合がすべて解消出来すっきりした。

修理代40€であったがチップ10€で彼の車で街まで送ってもらう。この島はエオリア諸島で一番人口の多いところだそうで観光客含めてにぎやかだ。黒曜石の産地でギリシャ時代から栄えた島だそうだ。

南イタリアに入ってから大きなスーパーマーケットが見つからなかったがこの街には大きなスーパーマーケットがあり、又艇まで運んでくれるというので水、ビール、ワイン等の重いものを中心に買い物をする。何と荷物と一緒に我々も送ってくれるという事なので便乗させてもらい助かる。

艇で稲庭うどんを頂き15:20に舳いを解き4NM先の隣のヴォルカノー島に行く。

このエオリア諸島は世界自然遺産だがヴォルカノー島は入り江に温泉がある。

温泉のある入り江のLevanteに入ると10数隻の艇がアンカーリングしている。我々もアンカーリングの場所を探したが狭くて躊躇していたらラバーボートが来てブイ舳いを案内してくれた。二人でいるときはア

ンカーリングしている艇を無人にして出かけるのは心配だが係留用のブイなら走錨する心配はいらない。ラバーボートが送り迎えもしてくれた。

ブイの係留にしては高く 40€取られたが安心料もあるので良しとした。お蔭で海底の噴気孔からガスが泡立つ海水温泉を満喫できた。

夏休みの島に来たせいか浜辺にはトップレスが散見された。

ブイ舫いであるがマリナー内に居るのと違い自然の懷に包まれ自然の音だけで気持ちが良い。デッキで夕陽と海を見ながらの一杯は最高だ。

夕食は鶏ヒレのグリルとライスを頂く。明日はメッシーナ海峡を通過するのが 12 時前でないと逆潮になるので早朝の出発になるので 9 時過ぎに暗くなると同時に早々とベッドに潜りこみ就寝する。

6月18日(月) Vulcano~Naxos(Taormina) (70NM) 快晴

日の出と共に舫いを解き 05:40 に出発する。アンカーレッジを出るとき後ろを振り向くと名残が惜しい。いつも通り風が弱く機走と機帆走を繰り返しながら 6 ノット以上のスピードをキープしてメッシーナに向かう。

途中昨日港で見た Swordfishing Boat が 2 隻漁をしているのを遠方で見た。近くに寄りたかったが離れていく方向だったので諦めた。このボートはカジキマグロを漁する専門の船で鉄骨で組んだ見張り台が 20 m ぐらいの高さにあり舳には同じく鉄骨で組んだ長さ 20 m ぐらい飛び出した突きん棒用の台が設置されている何とも言えない形のメッシーナ独特の漁船だ。予定通り 11 時過ぎにメッシーナ海峡に入る。ここの潮流はティレニア海とイオニア海との潮汐の時間にずれがあるため生じるそう。強いときは 4 ノット近くなるので逆潮は厳しい。

海峡の一番狭いところで約 1.5NM だがそこを通過するときは 3 ノット近い追い潮で 9 ノット近く出た。風も追い風が 20~25 ノットと強くなり 7.5~8 ノットで快調に海峡を通過する。タオルミナ迄メッシーナから 30NM あるので場合によってはメッシーナの港に入る予定もしてたが風も良いので一気にタオルミナまで行く事にした。この辺りでマグロが釣れるとの情報があったので釣り上げる予定をしていたがイルカが伴走し始めたので早々に針を揚げる。

そのうちエトナ山が噴煙と共に見えてきた。

タオルミナの街を見ながら隣の Naxos のマリナーに入るが小さなマリナーで砂地の底の水深が不確かです。そろそろとポンツーンに向かうが底を砂に擦ってしまう。

観光船が親切に引っ張ってくれ脱出出来迂回路でポンツーンに舫う。

係留艇してあるヨットは他に 1 艇だけだった。

ここも底の見えるきれいな港で早速潜ってキールを調べるが砂で藻が綺麗に取れているだけで異常なかった。

タオルミナの綺麗な夜景を見ながらカレーライスを頂く。

6月19日(火) Naxos~Taormina (2NM) 快晴

朝一番でタオルミナとカステロモロの観光に行く。

ナクソスはタオルミナから 5 キロぐらい離れた丘の上にある。バスに乗り狭い道をタオルミナの丘まで上がる。圧巻はギリシャ劇場で下には地中海を望み上にはエトナ山を望む絶好の位置にある。素晴らしいギリシャ文明の世界に触れる。いつも思うのだがギリシャの建造物は地中海をバックに海と空を組み入れている。

カステロモロは良くぞこんな崖の上に密集して街をつくったと思う。

13 時過ぎにマリナーに戻りマリナーの前のレストランに寄り、暑さのため喉の渇きが激しいので生ビールをお替りして飲む。そして昼食に海の幸のリゾットとサラダを食べた。

隣席のイタリア人グループが話かけてきてシリアのワインを頂く。艇を見たいということなので案内する。

ミラノからバカンスで出身地のシリアに来ているそうだ。

15:30 に舫いを解き同じ湾内にある錨泊地に移動する。良いお天気で海も静かなので一晩 80€のマリナーに停泊する必要がないのとタオルミナは良い錨泊地があるので移動した。

4 艇程錨泊していた。アンカーを打った後昼寝をしてから泳いで体を冷やす。意外と地中海の海は冷たい

が体に気持ちが良い。

錨泊するとすることもなくタオルミナの景色をしたから見ながら悠久の時を過ごす。

休んでいるとテンダーが来た。CAVOK はオランダの国籍なのでオランダの旗を掲げている。その旗を見てオランダ人が南から来たのか北から来たのか聞きにきた。北から来たのならメッシーナ海峡の潮流を教えて欲しいということだったので教えてあげる。

日没前の 20 時にスパゲッティを頂き、静かな海の上で眠りにつく。

6月20日(水) Taormina~Catania (20NM) 快晴

タオルミナの錨泊地で爽やかな朝を迎える。丘の上のタオルミナの市街地が朝日できれいに映し出されている。

今日はカターニャまで 20NM と近いがゆっくり帆走を楽しめるように 07:30 に錨を揚げる。湾を出ると北からの良い風が吹き出しクォーターで 5 ノットの速度でイオニア海をエトナ山の雄大な姿を(単独峰で富士山の裾野のような広がりがある)右手に見ながら気持ち良く走る。

11 時過ぎより風が弱まってきて 2 ノット以下の速度になったので諦めて 12 時に機帆走にして 14:10 カターニャの旧港の方のマリーナ Diporto Nautico Etneo のポンツーンに舫いを取る。ここには新港含めて 4 つのマリーナがあったがパイロットブックを見てここが街の中心に近いので電話で予約を入れておいた。町に近く便利だがトイレ、シャワーがなかった。

スタッフは親切で船外機のエンジンがかからないのでメンテナンスをお願いしたら、自分の車にエンジンを積んで一緒に修理工場迄連れて行ってくれた。

又パソコンのインターネットが通じなくなったのでボーダーフォンのショップを見つけてみてもらうが直らない。明日又調べたいと思う。インターネットが使えないと天気が読めないので命取りになるので最重要だ。

カターニャは昨年 6 月 8 日にスペインの Benalmadena でグラナダ旅行にバスで行ったとき知り合った Erisilia さんと Cecilia さんが住んでいるところで前からお会いする予定だった。

19:30 にチェチリアさんが車で迎えに来てくれ市街地の名所を案内してくれた。

21 時前にエリシリアさんのお宅にお邪魔する。

お宅はエトナ山の 17 世紀の大噴火とその後の地震によって破壊された後、造られた旧市街地にあるが狭い路地に両サイドびっしりとバロック様式の 4, 5 階ぐらいの建物が連なっているところだった。一度は入ってみたいと思っていた住居だ。その中に入れることになり興味が非常に湧いた。

厚い木の造りの門の中は何と二人乗りのエレベーターがついていた。それに乗り 4 階のエリシリアさん宅に上がる。中は素晴らしい造りで昔からの調度品できれいに飾られ、掛けられている絵は 17 世紀の地震の時に残った絵だそうだがそのような絵が数点飾ってあり美術館の一室に居るようだ。

エリシリアさんのご主人にも歓待を受けた。彼は弁護士で結婚して 40 年経ったそうで偶然我々と同じだった。

最初の階はリビングルームが 2 間そしてダイニング、2 階にはご主人と奥様のそれぞれの書斎とワーキングルームがあり 3 階にキッチンそして屋上のバルコニーとかなり広い。

見晴らしの良いバルコニーで夕食をご馳走になる。前菜にスパゲティ・ノルマ メインにエビのグリル サラダはトマト、インゲン、レタスのサラダを頂く。スパゲティは今まで食べた中で一番美味しかった。デザートにフルーツコンポート、ケーキはチョコレートアイスクリームを頂く。一つ一つの味が手のこんだ味で家庭でのイタリア料理が経験出来た。

又イタリアの一般的な上級階級の生活を見る事が出来た。

明日の夕食の約束をしてチェリシアさんに艇まで送ってもらう。

6月21日(木) Catania 快晴

朝起きてから昨日チェチリアさんに教えて頂いた朝市に行く。

非常に大きな魚の市場があり新鮮な魚が沢山並んでいる。その中で黒マグロを見つけトロの部位をカットしてもらう。その他鱈、イカ、アサリを買う。朝市から帰り 来客用のシーツをクリーニング屋に出してからマリーナの脇のカフェで昼食をとる。シチリア名物丸いボール状のライスコロッケアランチーノにトライ

する。ミートソースで味をつけて中にチーズを詰め込んだものだ。一個は一人で食べきれなかった。

マリナーでは大きな艇が入るので別のバースに移動して欲しいとの事なので移動するが次のバースが狭いところで無理やり押し込んだ。

インターネットが相変わらずつながらないのでポータフォンを諦めて、もう一つのイタリアの通信 WIND に行き新インターネットキーを購入する。

24 時間後に使えるということでこれに期待する。

外国で航海をしているとトラブルをどう処理するかが大きな課題だ。

夕方 19 時にエリシリアス夫妻が迎えに来てくれ夏の海水浴場で賑わう郊外の街を案内してくれ夕食は海の上にそそり立つ城塞の脇にあるレストランのテラスで心地よい風を受けながらピZZAをご馳走になる。

彼らのお蔭で通常観光で来たら見られないところを見せて頂いた。

艇まで送ってもらい艇のデッキでシャワーを浴びてぐっすり眠りにつく。

6月22日(金) Catania 快晴

インターネットの接続が出来ない件が心配なので私の使っている東芝に電話して解決を図るが上手く行かず。

諦めてお昼から乗り降り自由の市内観光バスに乗り市内見学をするが前チェチリアが案内してくれたので復習の良い観光になった。街の中心でバスを降りて私は再度ポータフォンに行き再再度のインターネットのコネクションを調べた。その間悦子は大聖堂を観光した。

残念ながらインターネットのコネクションは上手く行かず退散する。航海中インターネットが使えないと気象が分からずピンチである。

インフレーター用のエンジンが直り一安心だ。そして夕方 WIND でのインターネットコネクションをしたら見事成功してホットした。

夕食は黒マグロのお寿司とアサリの酒蒸しをシシリア産白ワインで頂く。黒マグロの刺身は最高に美味しかった。

6月23日(土) Catania~Siracusa (30NM) 快晴

カタニャでは昨年スペインで知り合ったイタリア人とも会え、船外機の修理完了、インターネットの復活とすべて上手く行った。

今日も 30NM と短い距離なのでゆっくり 09:00 に舳いを解く。ぎりぎりに入れてあるので隣の艇を押しながらか出港する。

いつも通りの気象で快晴の中 1 時間程機走してから北東からの 8~10 ノットの良い風になりジェネカーを張り 6 ノット以上のスピードで滑り出す。エトナ山が段々遠ざかる。

気持ち良いセーリングも 3 時間と続かず機走で 15:10 にシラクーサの Marina Yachting Siracusa に入港すると手を振っている人がいる、昨年ポルトガルで一緒になったドイツ艇の夫婦だ。ボンツーンに舳った後再会を喜ぶ。こちらではリタイヤーした人が我々みたく地中海をセーリングしているのを良く見かける。

彼らはこの湾で 5 日間錨泊していて昨日友人の迎えと補給を兼ねてこのマリナーに舳ったそうだ。ここは一泊 75€取られるので CAVOK も明日からは錨泊が良いと教えてもらう。

マリナーはオルティージャ島にあり旧市街地でアテネ神殿の眠るドゥオーモやパピルススの茂るアレトゥーザの泉があるので早速観光に行く。

ドゥオーモはバロック形式の重厚な建物だが紀元前 5 世紀にドーリア式のアテネ神殿の上につくられたものでアテネ神殿の円柱が身廊に組み込まれ時代の変遷を物語っていた。

夕食は暑い日中と変わり夜風が気持ち良いコックピットでマグロ、イカのお寿司とアサリの酒蒸しを頂く。朝市で買ったトマトが新鮮でおいしい。日本酒がなく白ワインだが辛口の白ワインだとぴったりだった。

6月24日(日) Siracusa 快晴

シラクーサの湾は静かで錨泊には最適だ。又世界遺産の旧市街地の岸壁にも無料で舳うことが出来る。今日我々もマリナーから岸壁に移そうと思っていたが艇を留守にして観光は危険が伴うと思い、もう一日マリ

ーナに停泊することにしてギリシャ、ローマ時代の遺跡を訪ねることにした。

朝食はオルティージャのカフェーバーでカプチーノとクロワッサンで済まし地図を片手にシラクーサの町に渡り、まずはギリシャ劇場跡、古代ローマの円形闘技場跡を見る。今まではどちらかというところローマ時代の遺跡を見てきたがシラクーサはギリシャ遺跡だ。

アテネを凌ぐ都市であったと云われるが納得する。

ギリシャ劇場では偶数年に古代劇の上演が行われる。幸いに今晚も上演ということで夕方出直して観劇に行くことにした。

その後ギリシャ時代からのカタコンベ、考古学博物館を見学してオルティージャに戻りレストランでスパゲティー・ノルマとミックスサラダを食べる。

艇でシェスタをしてから 18:45 から上演のギリシャ劇場に今回は歩きでなくタクシーで行く。ギリシャ劇場は正面が南で西側に海を臨む。ギリシャの遺跡はいつも海が近い。

快晴の天気なので夕陽が東側の席を照らし東側の席は暑いので西側の席から埋まっていた。

上演が始まったときはまだ西陽が舞台を半分照らしていた。終了したのが 20:30 だったがまだ明るかった。古代ギリシャ時代も太陽の光を舞台に効果的に取り入れて上演したのかと思った。

今日の出し物は「プロメテウス」ギリシャ神話の神の物語でゼウスとの駆け引きの話であった。残念ながらやり取りの言葉は全く分からず古代ギリシャ劇の雰囲気味わうだけであった。大変貴重な観劇が出来た。

タクシーで艇に戻りヤリイカのガーリックソテー、これが白ワインにぴったりだった。

とマグロの照り焼き、鰹のマリネをすし飯で頂く。美味しかった。

6月25日(月) Siracusa 快晴

朝起きて直ぐオルティージャの橋のたもとで開いている朝市に出かける。

生きのいいエビとイカがあったので仕入れる。やはり我々にとって魚介類は食指を誘う。

帰りにカフェバーでクロワッサンとカプチーノで朝食を済ます。食材を冷蔵庫にしまってからバスで約 1 時間弱の所にある Noto に行く。ここは 17 世紀の地震で壊滅的に破壊され、その後バロック様式で再建され、豪壮な館が並び中世の面影を残すところだ。素晴らしいバロック様式の装飾で彩られた館が見事であった。ここも世界文化遺産だ。

16 時過ぎに艇に戻る。今晚はマリーナの直ぐ外の湾内で錨泊をする予定なので水を補給して舳いを解き錨泊地に行く。既に 15 艇程アンカーリングしていた。ここはアンカーリングに適したところで水深が 10m 程度の海底が続き下は泥でアンカーの効きも良く又三方が岸に囲まれている。

今日もとっても暑い日中であったがアンカーを打って海の上に居ると心地よいシーブリーズが吹き気持ち良い。

シャワーを浴びてすっきりしてから夕暮れ前を静かな湾内で楽しむ。

夕食は朝仕入れたエビの湯でたのと鰹を艇のバーベキュー台で塩焼き、ナスとトマトのスパゲティーを白ワインで頂く。

なかなか鰹の塩焼きは美味しかった。

夕暮れの夕陽からそして夕陽が沈んだ後の空の色の変化が美しい。

6月26日(火) Siracusa ~ Mazamemi (25NM) 快晴

静かな湾での錨泊は気持ち良くぐっすり寝た。この半年の海の上での生活は世俗とも離れ自然の中での芳醇な時間だ。

爽やかな朝を迎える。エネルギーが十分に充足され気持ち良い。

このところの地中海気候からして朝 10 時を過ぎないと風が吹かないので風待ちをして 09:40 にアンカーを揚げる。案の定湾を出るところから東南東の 10 ノット近い風が吹き出しセーリングする。久しぶりの上りの風になりクローズホールドで走る。

段々風が強くなり 15~20 ノットの風になり快調にセーリングする。途中自然保護地区の海域があり浮標で識別してあるところを抜けようとしたら自然保護監視のボートが来て出るよう注意を受けてしまう。通り抜けるだけなら良いと思っていた私の失策だった。

16:30 に Mazamemi の港に入るがここは二つマリーナがあり Marina Sporting の方に VHF で連絡して

はいる。ラバーボートで誘導してくれる。

ポンツーンに舫ってゆっくりしていると隣にオーストリア艇が入ってくる。艇にメルボルンと書いてあるのでオーストラリアから来たのかと聞くと何とオランダで艇を購入して地中海を回っているそうだ。夫婦で乗っているが我々と同じくリタヤーしてから楽しんでいるそうだ。日本にも仕事で何回も来たそうだ。

このマリーナは近くに何もなくマルタ島への中継地点として便利なようだ。オーストラリア艇もマルタ島から来たそうで、この後クロアチアを回るそうだ。どこかで又再会できることかと思う。

夕食は昨日市場で仕入れたヤリイカと芝エビをおつまみにしてワインを、そしてレタスとキャベツと混ぜた様な野菜にトマトを入れたサラダ、青梗菜もどきの野菜のグリルを頂く。

幸せな時間だ。明日はいよいよマルタ島ここから 60NM あるので朝早く出港することにする。

6月27日(水) Marzamemi ~Malta (Valleta) (60NM) 快晴

今日は 60NM 走るので 6 時に起床したが風が強く様子を見ることにした。天気図上でも強風の予測は出来ないし目的地マルタの予報も良い。港の防波堤から外洋を見ても白波は立っているものの大きなうねりもない。又風の方向は北からなのでマルタには多い風になるので出港することにした。ここでの風は 20 ノット位だ。ただ CAVOK の係留場所から出るのが風が強いため難しいのでマリーナのスタッフに頼みラバーボートで引っ張ってもらい 08:00 に出港する。常に安全サイドを取るのが CAVOK のマニュアルだ。

無事出港して港の沖の岬を通過してからジブ、メインを 3 ポイントリーフにして真追っ手なので観音開きで帆走に入る。風が強くても追っ手の帆走は楽だ。そのうち 3 ポイントは必要ないと判断してフルセールにして 7 ノット前後の速度で快調に帆走する。

60NM の距離を自然の風の恩恵を受けてセーリングする醍醐味は素晴らしい。

シシリア島とマルタ島の間は大型船の航路で行き交う船が多いので注意が必要だ。

珍しく空が霞んでいてマルタ島が見えたのは残り 10NM 切ってからだ。

今日シシリアのマルツメミより 60NM 帆走して聖ヨハネ騎士団の本境地マルタ島に上陸した。

要塞都市ヴァレッタを望みながらヨーロッパ屈指の天然の良港 Grand Harbour の中にある Grand Harbour Marina に舫いを取る。

港の入り口から騎士団栄光の時代から変わらない昔ながらの城壁と建物が目前に迫り圧倒されると同時に感動した。

ご存じのとおりここは 1565 年トルコ軍による大攻撃に耐えて騎士団が勝利したところだ。この時の騎士団の勢力はナイトが 600 人そして兵隊が 9000 人それに対してトルコ軍は軍船が 138 隻兵隊は 38000 人だったそうだ。

マリーナは入り江を挟んでヴァレッタの対岸にあるが直ぐ前には海事博物館があったり 17 世紀に建てられたガレー船の船長の館はカジノになっている旧市街地にある。

夕食は周りの石灰岩で出来た 17 世紀の館を見ながらプロシュート、フェタチーズ、アラビアータとサラダでロゼワインを頂く。

6月28日(金) Malta(Grand Harbour Marina) 快晴

朝デッキを水洗いしてからマルタ見学に乗り降り自由の周遊観光バスでマルタ島の北半分を観光する。紀元前 3500 年~2400 年頃に建てられた巨石の建造物のハジャー・イム神殿とイムナイドラ神殿を見学してヴァレッタの街を歩く。残念ながら聖エルモ砦は解放してなく見学できなかったが世界遺産の市街地を歩く。

帰りバスを間違えて乗ってしまいヴァレッタの港で降りる羽目になり、対岸のマリーナに行くのに水上タクシーを探して歩いて偶々岸壁にいた人に聞いたら OK 今来るからとのこと、そのうち大きなラバーボートが来て乗せてもらったが何とこれはビッグヨットのテンダーで親切にも彼らに便乗させてもらったことになった。

夜はサラミ、チーズ、鶏肉のヒレのグリルと野菜サラダで赤ワインを頂く。

日中は大変暑く日当たりに居ると熱射病になるかと思うぐらいだが陽が落ちると涼しくなり、シャワーを浴びた後のデッキでの食事は心地よい。

6月29日(金) Malta(Grand Harbour Marina) 快晴

昨日聖ヨハネ大聖堂に寄ったが時間が遅く入れず、今日一番で水上タクシーに乗ってヴァレッタに行ったが今日は聖ペテロ、聖パウロの祝祭日で聖ヨハネ大聖堂にはミサがあり終日一般公開しないとの事で諦める。次に騎士団長の宮殿に行く。現在は大統領府と議事堂が置かれているが一部一般公開している。その中で大使の間は赤色で統一され Red Room と別名があるそうだがタペストリー等の装飾含めて素晴らしい。石灰岩で出来た建物には当時の騎士団の豪壮果敢な歴史とその後の優雅な生活を物語っている。兵器庫には当時の甲冑はじめ色々な武器を見ることが出来トルコ軍の大包囲戦時の戦いの凄さを想像した。

国立考古学博物館を見学するがエジプトの歴史より古いとされる巨石神殿の遺跡からの貴重な発掘物が展示されている。特にマルタのビーナス、眠れる女神などは今の時代でも素晴らしく光っている。

その後バスでタルシエン神殿と地下の岩盤を削って出来たハル・サフリエニ・ハイポジウム神殿を見学に行くがハイポジウム神殿は予約制で7月27日まで予約で一杯ということで見る事が出来なかった。

ヴァレッタに戻り水上タクシーでグランドマリーナハーバーに戻り海事博物館を見学して艇でゆっくり休む。

夕食はマリーナの前にある港を一望できるレストランに行く。ロゼワインで、ビーフのカルパッチョ、メロンとプロシュートを食べてからマルタ産ワインがおいしいということなのでマルタ産の白ワインを頼み、タコのガーリックグリル、シーフードライスを食べるがシーフードライスが美味しかった。

6月30日(土) Malta(Grand Harbour Marina~Comino) 快晴

午前中昨日入れなかった聖ヨハネ大聖堂に水上タクシーを使い行く。向かいにヴァレッタまでは10分ぐらいで着く。

大聖堂は荘厳な装飾がなされ当時の聖ヨハネ騎士団の力が象徴されている。カラヴァッジョの絵も併設されている美術館で見る事が出来た。

今まで数々の大聖堂を見てきたが豪華さでは抜きんでいた。

午前中に艇に戻り出港の準備をして3時に舫いを解きマルタ島の西にあるマルタ島とゴゾ島の間にあるコミノ島に行く。土曜日のせいか行く途中の海岸ではマリネレジャーを楽しんでいた。17:30にコミノ島の錨泊地にアンカーを打つ。ここも10隻以上の艇がすでにアンカーを打っていた。早速ゴムボートを降ろし洞窟を探検する。入り江はブルーラグーンと言われているが納得する。潜ってアンカーの効きを調べるが岩に掛かっている状態だ。強風とうねりがない限り心配ない。

錨泊すると今までの暑さが嘘みたいに心地良くなる。

静かな夕暮れの海面をバックにラタトユ、ピラフ、鶏ヒレのソテー野菜サラダを今日仕入れたマルタ産白ワインで頂く。このワインは辛口でなかなかいけるワインだ。

22時前に就寝する。正に海のベッドで寝ることになるので気持ち良い。



